

## 土日は信濃で彼女とデート

JH3AEF

東條純一

### 土日は信濃で彼女とデート

私を乗せたJR特急信濃ワイドビュー15号は今、JR名古屋駅を長野に向けて発車しようとしている。丁度14:00発だ。愛称のごとく視界はすこぶる広くシートはリクライニング、今しがた乗り換えたN700系の“のぞみ”に比べても何の遜色もない。しかも土曜日午後というのに連休明けも手伝ってか自由席ですらガラガラだ。

昨今、世の中便利になりすぎたとの苦言が聞かれないでもないが、昼まで仕事場において午後2時名古屋発とは実に素晴らしい。結構、結構！

列車？電車は音もなく滑り出し、ホームでのけたたましいベルの音も、追っ立てるようなマイクの声もない。日本の国もスマートになったものだなと感心なんかしていたら、「お爺、田舎もんやな」と子供にまで笑われそう。

20分も走れば車窓には水の張られた田んぼが、そして植えられたばかりの早苗が風に揺られ、水面には新緑の里山が影を落としている。

その昔、夜行列車が喘ぎ喘ぎ登った中央西線を電車は快走、40分を過ぎるころには里山は雪を戴く高嶺に変わ

り、木曾谷が眼下に迫り、木曾路に分け入った事を実感する。雪と新緑と急流が織りなす中山道の景観は、かつての夜行列車では決して見ることのできなかつた一大パノラマだ。必死に車窓を覗きこんでいるうちに、眼前のスクリーンは半世紀むかしの中央西線へと変わっていた。蟹の甲羅のようなキスリングザックで行き来も出来ない通路、キシミ音の絶えない木造の車両、一寸指がかかろうものなら煤で真っ黒になる荷物棚。物淋しさを誘う汽笛が聞こえれば、閉まった窓からも遠慮なく忍び込む黒煙。当時、私が何よりも物淋しいげな旅情をかきたてられたのは次々と闇の彼方に消え去ってゆく踏切の警報機の音だった。

カ、カ、カーン、ウン、ン、、、、、、時に微かに蒸気機関車の喘ぎが聞こえるが大方はスローテンポの車輪の音のみ、カタコトカタン、カタコトカタン、カタコトカタン、、、、塩尻峠の急勾配になると今にも止まりそうにカッターン、コトーン、カッターン。列車も頑張ったけれど乗客も良く辛抱したものだ。夜中に名古屋を出て夜が明けた頃、ようやく信濃の地に分け入ることができた。



新芽の間から顔を出す北アルプス後立山連邦「針の木岳」周辺

そのような苦勞をしてまで通うことを諦めさせなかった信濃の地、塩尻を過ぎると昔と寸分変わらぬ山塊が今も私を迎えてくれていた。松本着は16時03分。何と2時間03分しかかかっていないのだ。

駅前で安宿をとり、夕食は松本城近くの老舗の蕎麦屋へ。打ちたてのお蕎麦を待つあいだ新鮮な山葵をすりおろす、いい香りだ、先ずは冷たいビールに馬刺しでひと息入れる。何と贅沢なこと。結構、結構。

レンタカーを借りれば日曜日はゆつくりと目的を果たすことができようというもの。

目的???

それはね、白い肌に薄紅をチラッとのせて雪国の春のごく限られた期間にのみ逢うことのできるいたいけな美女、名前は“クモツマキチョウ”に出会うこと。信濃の遅い春のひと時、雪解けの河原に咲く野の花に舞い降りる彼女にめぐり逢い、出来れば一枚写真を撮らせていただくことだ。



本命の彼女、「クモツマキチョウ」実は彼なんです。蝶の世界では綺麗に着飾っているのは雄、雌は多くは大型で質素ないでたちです。

天気よし、道路事情よし、連休明けの二度の土日を、最初は大阪から全行程車で、今回はJRとレンタカー利用で。

昨年再会を果たした細野のタケちゃん、いや失礼、岳彦ご主人にもちゃんと彼女の情報を仕入れていただいて、これで彼女に会えなかったら俺はよっぼどヤボちゃんということか。

さーて結果をご覧ください！！

信州安曇野は盆地、周りを3000m級の高山に囲まれていて平地部ではハムの条件には厳しそうに見えました。

05/2014



開翅巾30~35mmの彼女とのお付き合いは大変です

# (メモ) 簡易な160mアンテナ

JA3AOP / 杉山 暁

風でアンテナがダメージを受けて、その時160m用のアンテナも撤去したので、この5年間余りは160mバンドのアンテナが無い状態で過ごしてきました。  
 160m用アンテナを復活させるのに出来るだけ簡単な、設置の容易なアンテナは無いものかと、Webを散策してみました。  
 「クランクアップタワーで簡単に160mにQRV」という文言が目に残りました。  
 スローパーアンテナが簡単と言われてはいますが、クランク

ダウンすると、160mアンテナのエレメント線がタワーに絡まったりするので厄介です。  
 この点の解決策として、タワーの最下段上部をフィードポイントとして、この点からワイヤーを張るのです。  
 こうすれば、160m用アンテナワイヤーの支持はタワーの上げ下げに干渉せず、取り扱いが楽になります。  
 構造的には簡単で良さそうですが、どんな特性になるのか、気になりましたので、極めてラフですがMMANAでシミュレーションをしてみました。

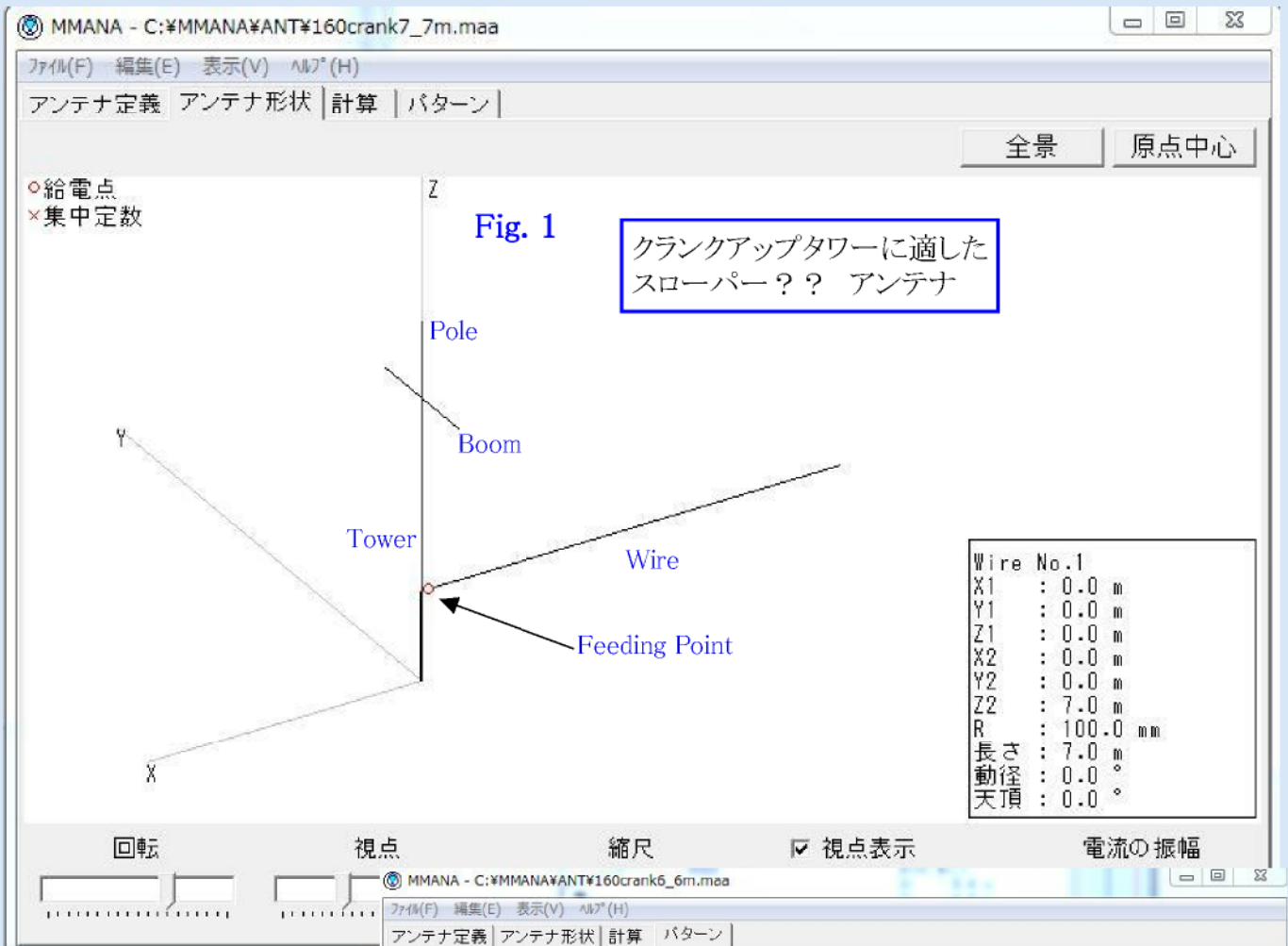


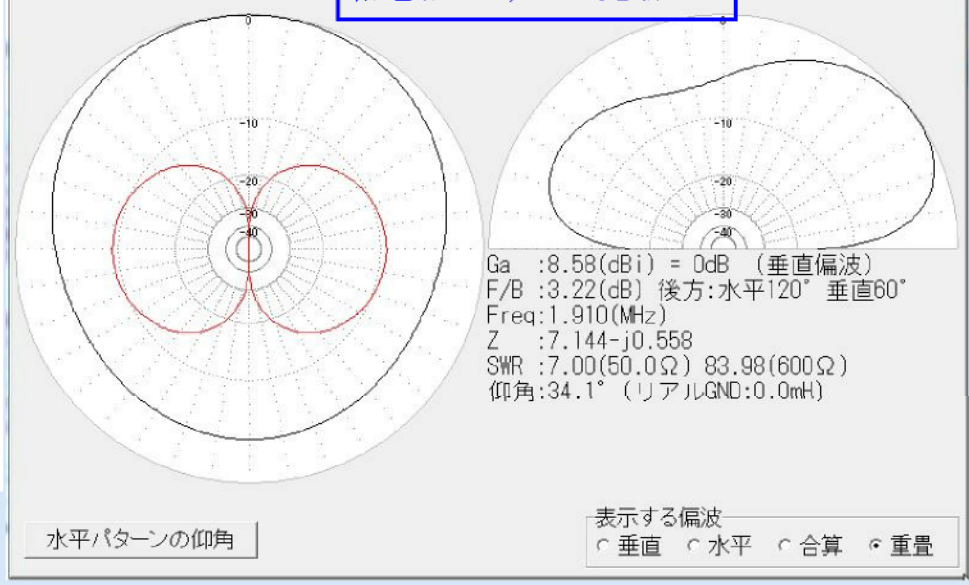
Fig. 1

クランクアップタワーに適したスローパー?? アンテナ

Fig.1に図示するように極めてシンプルです。クランク・タワーの最下段からしかるべき長さの、ワイヤーを張るだけです。

- <1> 給電点高さ= 6m,
- Wire 末端高さ= 6m. の場合。
- Wire長 37.5m で1.910に同調
- インピーダンス 7.1Ω
- SWR = 7.0(50Ω)
- Wireと反対方向にゲインあり。
- F/B = 3.22dB,
- Ga = 3.58dBi

給電点 6mh, Wire 先端 6mh



<2> 給電点= 7mh, Wire 末端高さは= 7m.  
Wire長 33.0m, インピーダンス 33.2Ω  
SWR =1.5 (50Ω) F/B =2.66dB,  
Wireと反対方向にゲインあり。Ga = 2.14 dBi

給電点高さが 6mのときに比べてインピーダンスが33Ωに上昇してSWR=1.5 と非常に使いやすくなりました。

給電点の位置はそのまま、Wire エLEMENTの末端部を高く持ち上げてみました。  
Wire 先端部を15mhに設定して計算すると、

<3> 給電点= 7mh, Wire 末端高さは= 15m。  
Wire長 32.0m インピーダンス 48.8Ω  
SWR =1.03 (50Ω) F/B =2.28dB,  
Wireと反対方向にゲインあり。 Ga = 1.67dBi

Wire 先端部を15mに持ち上げることでインピーダンスが48.8Ωに上昇してSWR=1.03 となり、マッチング回路は不要となりました。  
指向性は少し減少しました。

比較のために逆L型ワイヤーアンテナの特性も計算してみました。アルミ伸縮ポールにガラスポールを継足した15mhのポールを想定しました。

ポールの基部から Wireを垂直に15mまで引き上げ、そこから斜めに引き下ろし、先端部の高さを5mhとしました。 Wire長は 39.5m。

<4>  
逆L型  
垂直部 15m, 水平部(傾斜部) 24.5m  
給電点高さ= 0m, Wire 末端高さは= 5m。  
Wire長 39.5m。 インピーダンス 6.9Ω  
SWR =7.3 (50Ω) F/B = 3.16dB。  
Wireと反対方向にゲインあり。 Ga= 3.16 dBi

各アンテナのGain ですが、MMANAでは給電点に1VのRF電圧を与えた時の状態を計算しています。 <1><2>の場合はインピーダンスが7Ωなので50Ωの場合に比べて7倍ほど電力を与えて計算しています。実際にはアンテナはインピーダンスマッチング回路によって50Ωに変換されて送信機に接続されます。

この補正を行うと<1><2>では8.5dB, <3>では1.8dB ゲインを割り引いて考える必要があります。その結果、

<1>、<2> Ga = -5dBi  
<3> Ga=0.4dBi <4> Ga= 1.6dBi  
と考えるべきです。

今回は机上のチェックですが、実際どうなのか試してみたいと思っています。

